

平成 22 年度入学試験

一 般 学 科 試 験

桐朋学園大学音楽学部

Ⅰ～Ⅱの各設問すべてに取り組み、それぞれの答を解答用紙の
所定の箇所に書きなさい。

注意事項

1. 問題用紙に落丁などある場合は、挙手をして申し出てください。
2. 退出は試験開始後 61 分経過してから可能です。ただし、終了時刻 5 分前以降の退出は、混乱を避けるために、認められません。
3. 終了時間前に退出する場合は、解答用紙の上に問題用紙を重ねて机上に置き、挙手をして試験監督の許可を得て、静かに退出してください。

I・1 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「知ってるつもり!?」というタイトルのテレビ番組がありました。この表現を見るたびに、私は、いまの世の中で「知性」と呼ばれているものは、すべてこれ、すなわち「つもり」「そんな気がしているだけ」ではないかと思えます。

「情報化社会」という言葉が頻繁に使われるようになったのは一九七〇年代ごろだったと思います。が、いま現実存在している「情報化社会」は、当時言われていた「情報化社会」と同じものとは思えないほど極限まで進んでいます。

職場でも、学校でも、日常生活においても、情報がコウズイのようなにあふれていますし、聞いたことがない事柄に出会っても、ネットでちよつとケンサクすれば、瞬時にしていただいたことはわかっています。

ですから、日常的にそうした状況にいるわれわれは、「もう、すべて知ってしまった」「知らないことは何もない」と、カタな情報量にげつぷが出そうな気分になっているのです。

それと関係するのでしょうか、最近の人は「知ってる」「知らない」ということに妙に敏感になっています。じつさい「知らない」と答えると、「えっ、そんなことも知らないの?」などと言われてしまいます。これは、情報の引き出しをよりたくさん持っていることを知性とはき違えていることのあらわれではないでしょうか。××を知らないから何だと言いたくなるのは、私だけではないはずです。

もちろん、「何でも知っている博学な人」はすばらしいと思います。けれども、私は本来的には、「物知り」「情報通」であることと、「知性」とは別物だと思えます。「A1」と「A2」は違うのです。「B1」と「B2」は同じではないのです。

たとえば、パソコンのソウサが得意な小学生が、機械の苦手なお父さんに代わって旅行のプランを作ってあげる、としましょう。即座に交通手段と宿と目的地の情報を集めて、プリントアウトする。だからと言って、この小学生がお父さんより知的な人間とは言えないでしょう。それと同じようなことだと思おうのです。

情報を扱う技術に長けている——そうした知のあり方と関係するのでしょうか。私は情報技術に通じた若い人たちの中に、変に老けこんだイメージの人がいるように思えてなりません。ものごとを情熱的に探求していかないというか、虚心に好奇心を持たないというか、あるいは、最初から行先を予想してやめてしまっていると言いましようか。それともまた、ものごとの原因と結果をいくつかのパターン（こうすれば、こうなる）を「情報」として蓄えてしまっているゆえではないかという気がします。

情報の引き出しでも、みずからの血肉になっているような情報が入っている引き出しならよいのですが、服のポケットにたくさん紙片を詰めこんでいるような知性——。これを「知ってるつもり」なだけの知性と言ったら厳しすぎるでしょうか。

ゲーテの『ファウスト』の中に、「悪魔は年寄だ。だから年寄にならないと悪魔の言葉はわかりませんよ」という言葉が出てくるのですが、なかなか意味シンチョウです。若者の浅知恵は、老人の成熟した知恵にはかなわないということでしょうか。

人間の知性というのは、本来、学識、教養といった要素に加えて、協調性や道徳観といった要素を併せもった総合的なものを指すのでしょうか。しかし、本来そうあるべきだった人間の知性は、どんどん分割されていきました。それは科学技術の発達と密接に関係しています。分割されて、ある部分ばかりが肥大していった結果、現在のようになってしまったのです。

十九世紀末に、人間の知性の断片化が加速度的に進んでいく状況を意欲的に分析探求しようとしたのがマックス・ウェーバーです。かれは文明が人間を一面的に合理化していく状況を主知化の問題としてとらえ、人間の調和ある総合的な知性のカクトク断念が、主知的合理化の「宿命」であると考

えていました。彼はダンテの『神曲』の言葉を引いて、「すべての望みを捨てよ」と説いたほどです。「職業としての学問（科学）」の中で、ウェーバーはこう言っています。

われわれはみな、自分たちは未開の社会よりはるかに進歩していて、アメリカの先住民などよりはるかに自分の生活についてよく知っていると思つてゐる。しかし、それは間違いである。われわれはみな電車の乗り方を知つていて、何の疑問も持たずにそれに乗つて目的地に行くけれども、車両がどのようなメカニズムで動いているのか知つてゐる人などほとんどいない。しかし、未開の社会の間人は、自分たちが使つてゐる道具について、われわれよりはるかに熟知しちちしている。したがつて、主知化や合理化は、われわれが生きるうえで自分の生活についての知識をふやしてくれてゐるわけではないのだ——と。

だからと言って、ウェーバーも、進んでいく時代の流れには抗えないと考えていました。ウェーバーの言葉を借りれば、「認識の木の実を食べた者は、もう後には戻れない」のです。

夏目漱石はロンドン留学をしています。漱石にとつて留学生活はけつして愉快なものではなく、「希望」のようなものはまったく見いだせませんでした。それどころか、イギリス人ほどいやな国民はいないとすら思つてゐたほどです。

しかし、自分たちも遅からずそうならざるをえないことも十分に予想してゐました。だから、日本の欧化について、「現代日本の開化は皮相上滑りの開化である」けれども、「涙をのんで上滑りに滑つて行かなければならない」と言わざるをえなかつたのです（講演『現代日本の開化』）。

漱石が奇妙な夢を十話にわたつて書いた『夢十話』の中に、そのあたりのことが象徴的にあらわされたものがあります。「第七夜」の、船に乗つて運ばれていく男の話です。

その男はなぜか大きな客船に乗せられていて、自分がどこへ運ばれてゐるのかわかりません。船は、船を追い越して前方に沈む太陽のあとを追うかのように進んでいくばかりです。そこで、船頭せんとうに行く先を聞いてみるのですが、答えてくれません。船に乗つてゐるのはほとんど外国人です。

男は心細くもあり、またこのまま船に乗せられてゐるのも意味がない気がして死のうと決め、海に飛び込むことにします。しかし、足が甲板を離れた瞬間、「よせばよかった」と思います。高い甲板から海面に達するまではスローモーションのようになり、その間、男はどこへ行くかわからない船でもやっぱり乗つてゐるほうがよかつたと思ひます。そして、「無限の後悔と恐怖を抱いて黒い波の方へ静かに落ちて行」くのです。

わけもわからないまま時代に流されるのはいやである。さりとして、それに逆らつて旧時代にこだわ

りつづけるのはもつと愚かである、ということだ。（姜尚中『悩む力』集英社新書 省略訂正している）

設問一 〰〰部①〰⑩の、漢字の読みを書き、カタカナは漢字に直しなさい。

設問二 傍線部1について、次の問に答えなさい。

1 いまの世の中の「知性」をたとえを用いて述べている部分を書きぬきなさい。

2 筆者が考える「本来の知性」とはどのようなものだと言つていますか。本文中から書きぬきなさい。

3 いまの世の中の「知性」の状況を示す言葉を、本文中から六文字で書きぬきなさい。

設問三 空欄部に入る英語を次の指示に従って記号で答えなさい。

空欄部 A 1、A 2 には ア「know」、イ「think」 いずれかを。

空欄部 B 1、B 2 には ア「Intelligence」、イ「Information」 いずれかを。

設問四 傍線部 2 「それと同じようなこと」とありますが、小学生とお父さんの話がどんなことと同じなのか、本文中から答えなさい。

設問五 傍線部 3 「若者の浅知恵」とは、ここではどのようなことをいっているのか、本文から答えなさい。

設問六 傍線部 4 「認識の木の実を食べた者は、もう後には戻れない」とは、どのようなことをいった言葉ですか。本文から、三十五文字以内で書きぬきなさい。

設問七 傍線部 5 を夏目漱石自身の言葉でいうとどういうことになりますか。本文から答えなさい。

I・2 次の①～⑤の傍線部の成語の漢字の読みを書き、その意味をア～オから選んで記号で答えなさい。

① 蛭雪の功

② 象牙の塔

③ 展示作品中の白眉

④ 胸襟を開く

⑤ 君子豹変す

ア 俗世間を離れた学究生活の世界。

イ 心の中を打ちあけて話し合う。

ウ 苦勞して学問をした結果。

エ 態度や考えが急に変わることに。

オ 多くの中で特にすぐれているもの。

II 次の各設問に答えなさい

問 1. 次の英語を日本語になおしなさい。

1. Have you written the letter to your father yet?
2. You have no need to worry about it.
3. He struggled like one drowning.
4. She is no longer the shy girl that she was ten years ago.
5. How lucky I am to have a chance to talk to you!
6. The man who I thought was your father turned out quite a stranger.
7. I have often heard it said that to live is to think.
8. We expect you to do your best in everything.
9. You may call him a scholar, but you cannot call him a teacher.
10. It is great to be changing something old into something new.

問 2. 次の日本語を英語になおしなさい。

1. あなたはなぜそこに行ったのですか？
2. 私は昨日、学校で鉛筆を失くしました。
3. 来年、彼女はニューヨークで新しい仕事を始める予定です。
4. 常に正直であることは難しい。
5. 昨日の4時に彼はそのレストランで食事をしていましたか？

問 3. 次の意見について、あなたの考えを5～6行程度の英語で答えなさい。

Easier said than done.

解答用紙

専攻	
受付番号	
氏名	

得点

I・1 解答欄

設問一

⑩	⑦	④	①
	⑧	⑤	②
	⑨	⑥	③

設問二

3	2	1

設問三

A 1
A 2
B 1
B 2

設問四

Ⅱ 解答欄

専攻
受付番号
氏名

得点

問1

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

問2

1

2

3

4

5

問3
